

開催地名：東京都八王子市	
開催日時	令和4年2月26日（土） 10:00～12:00
開催場所	八王子消防署
語り部	草貴子 （宮城県仙台市）
参加者	市内自主防災組織 100名
開催経緯	<p>現在市内の町会・自治会・管理組合の8割以上で自主防災組織が結成されているが、結成後の組織運営や継続的な活動に課題がある。</p> <p>各自主防災組織で実施する防災訓練の参加率の低下、参加者の固定化が進んでいる。</p>
内容	<p>(1) 福住町における自主防災組織発足の経緯</p> <p>東日本大震災時だけではなく、あらゆる災害をもたらす悲しみや苦しみやつらさを、今ここで住んでいて、そんな災害はないと思っていても、いつどこで被災するか分からない。被災時に自分が得た知識や知恵を冷静に発揮していただくことができれば、国や町が広める、防災、減災への一助になると考えている。様々な目線からの防災減災について考えるきっかけをつくることができればと思い自主防災組織を発足した。自主防災組織組合をつくり、避難所にいる間の問題や生活の悩みについて、女性コーディネーター6名が対応していく活動を始めた。</p> <p>(2) 東日本大震災時の記憶</p> <p>仙台市泉区は人口21万5,000人の仙台の副都心、ベッドタウンである。仙台は5つの区に分かれ、泉区は内陸部であるために、東日本大震災において津波の被害はなかった。</p> <p>発災後、すぐに避難をした。避難先では避難者の中からリーダーとサブリーダーを決め、町内会はサポートするかたちで運営に入った。リーダーとサブリーダーの指示に従うようにお話をし、「指示に従わない人は出ていって構いません」とお話ししたところ、出て行った夫婦もいた。</p> <p>電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1カ月で復旧された。各自で持ち寄った材料で卓上コンロを使って子どもたちが料理をつくるなど、ほのぼのとした時間も取れた。支援物資の引き取りで支援を受けたのは12日13日の2日間だけで、その後は各家庭で対応していただいた。</p> <p>非常事態で避難所の中で、思いがけない言葉をかけてくれる方や自分の権利主張だけの人、外国人の方の食べ物問題や宗教問題など、集団生活で人間のいろいろな一面が見えた。</p>

	<p>(3) その後の地域防災活動</p> <p>市ヶ坂東町内会は仙台市泉区東部に平成 20 年に設立した加入数 186 世帯の町内会である。働き盛りの 40 代 50 代の方、または単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私たち女性が立ち上がり、「防災・子育て支援・ふるさとづくり」を掲げてオリジナリティのある町内会をつくりあげた。</p> <p>役員 9 名全員が女性で、設立 2 年目に建設した集会所のために銀行ローンも組んで集会所建設にこだわり、女性向けの過ごしやすい空間を主婦がつくっている。総会を毎年 2 月の始めに開催し、行事はなるべく卒業式、入学式、転勤、引っ越し、受験のときにはせず、町内会、役員会は月 1 度行っているが、あくまでもボランティアでできることを無理なく行うとして活動をしている。防災、減災についてのクイズなどや、大声を出すような訓練、防災マップの作成、自身でできることのお知らせ、防災時に楽しめるカルタ作成などを行っている。</p> <p>現在仙台市では 700 名を超えるメンバーで、自分たちの地域は役所ではなく、自分たちで守るために地域防災リーダーの養成を行っており、地域の防災時に備え、避難所の規格・運営で地域を引っ張っていく訓練活動を始めている。</p> <p>自分たちの特性を考えて、身の丈にあったことを実践していくことの大切さ、防災、減災を考えて行くと健康な体がなくてはならないということで、足腰が丈夫じゃないと避難もできないので、日頃からの運動や「津波でんこ」も大切であるということ伝えていた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>有事の際、自宅内でも避難場所を考慮すべきであることは、見落としがちであると思った。また当管内の防災組織でも、女性リーダーの育成を進めていきたいと考えた。</p>